

青磁
(せいじ)



遺跡の時代より少し下りますが、兼好法師は『徒然草』第120段でこう言っています。「唐物は、薬の他は、皆無くとも事欠くまじ。」これは舶来品不要論ですが、裏返せば相当量の大陸物資が輸入されていた証です。また、生活必需品は国産で十分事足りていたといえます。これらの青磁碗も中国から輸入されてきたもので、一種の贅沢品だったのでしょうか。

中国製品は海路を経て日本へもたらされ、津々浦々に行きわたりました。特に左側の白磁碗はこの遺跡を掘っても破片が出るというほど多く輸入されました。この遺跡でこうした遺物が出土するのは、ある程度裕福な人々だったと考えることもできますが、河口にほど近い所に村落が営まれているという地理的な要因が大きいのかも知れません。



白磁
(はくじ)

須恵器
(すえき)



須恵器は播磨国の貢納品の一つでした。古墳時代から室町時代に至るまで連綿と生産され、中世には東播磨で焼かれた製品が諸国へ流通しています。こうしたことから播磨では多くの須恵器碗が日常容器として使用されました。写真は須恵器碗を逆さまにしています。底の出っ張りがある方が古く、無い方が新しい時期のものです。

大阪北部で作られたもので、表面に炭素を吸着させ、瓦のような色調をしています。畿内産の瓦器碗は西日本各地に流通していますが、播磨では須恵器碗が盛んに使用されたことから出土量はそう多くはありません。姫路では本町遺跡、英賀保駅周辺遺跡第3地点、古網干遺跡などで出土しています。



瓦器
(がき)

きよしとみゆる物 かはらけ...と『枕草子』141段にあります。当時ははらけ(土師皿)が一度しか使用されない使い捨ての器であったことからきれいなものと感じたのでしょうか。現代の我々から見れば、粗末なものにしか見えませんが、当時の感覚では少し違うようです。



土師器
(はじき)

英賀保駅周辺遺跡 - 第1地点 - 発掘調査現地説明会資料

2006年9月16日(土) 13:30~



姫路市埋蔵文化財センター

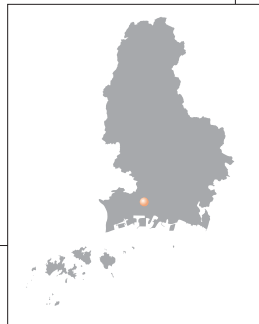
姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL 079-252-3950 / FAX 079-252-3952
URL <http://www.city.himeji.hyogo.jp/maibun-center/>
E-mail maibun-center@city.himeji.hyogo.jp

英 賀保駅周辺遺跡第1地点は夢前川左岸に位置します。周辺の山塊には多くの古墳が点在し、『播磨国風土記』には「英賀里」と記されており、古くからひらけた地域であったといえます。

遺跡の調査は土地区画整理事業に伴って平成14・15年度と今年度に行いました。これまでに約5,800㎡の発掘調査を行い、現在の山崎地区の前身と考えられる平安時代後半から鎌倉時代を中心とする集落跡が見つかりました。



1から見た全景(18年度調査)

調査で見つかった遺物は、白磁や青磁、瓦器など当時の流通品に加え、地元産の須恵器や土師器などがあります。遺構に伴う遺物の大半は平安時代後半から鎌倉時代(11世紀前半から13世紀前半)にかけてのもので、集落の主な時期がこの頃であることがわかります。それより以前の遺物としては古墳時代の須恵器や奈良時代、平安時代前半の遺物も見つかっています。



白磁碗の出土状況

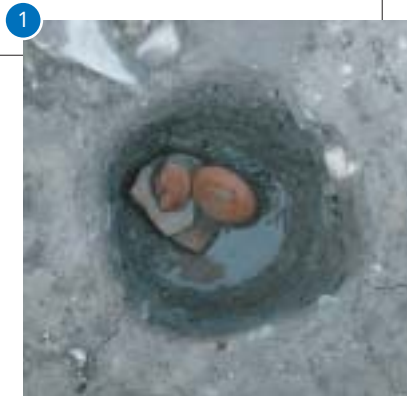
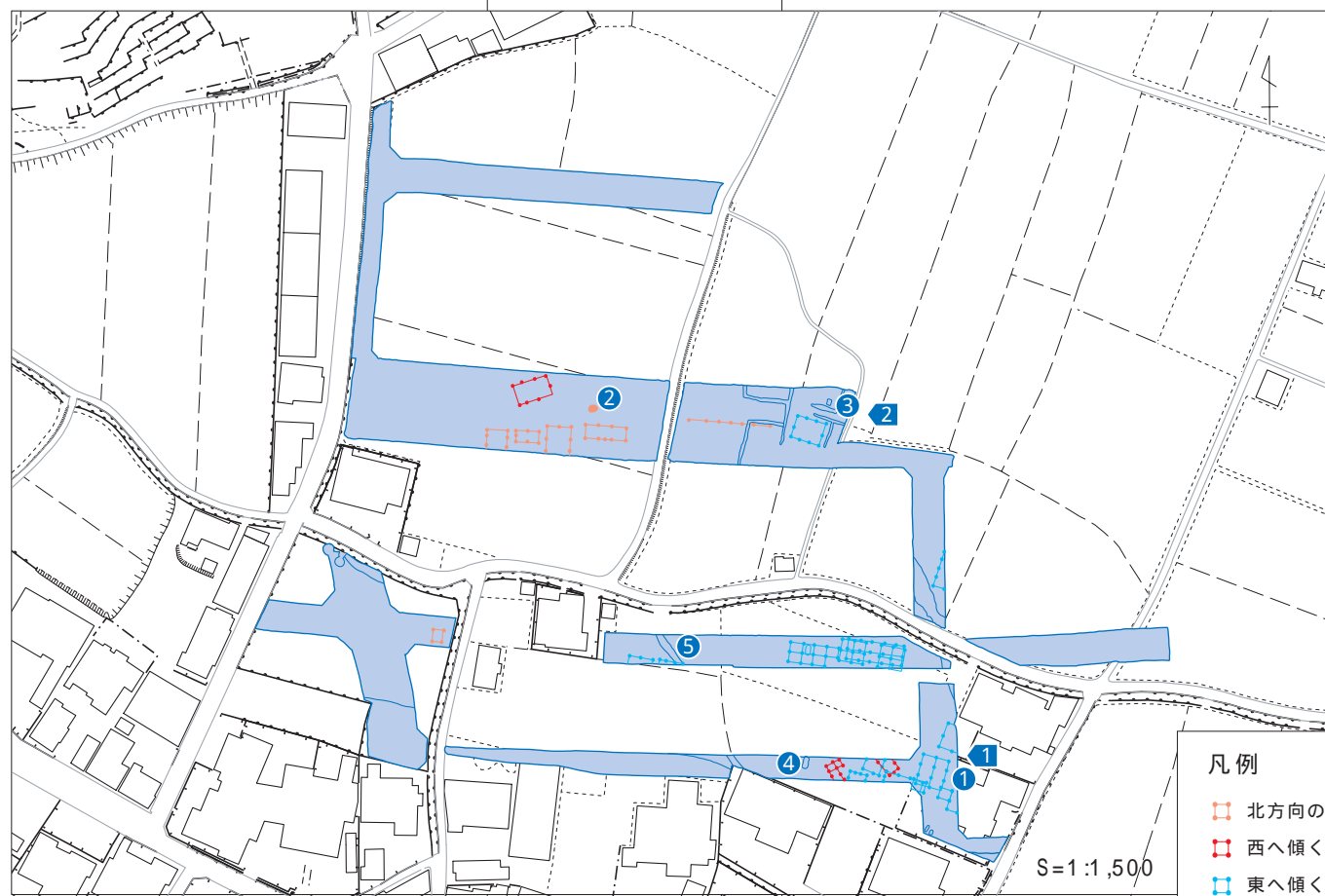
この瓦は播磨国府系瓦と呼ばれるもので、製作には播磨国司の関与が想定され、国司傘下の諸施設に配布されたと考えられている瓦です。遺構からの出土ではないためはっきりしません。周辺にそうした施設があった可能性も考えられます。



区画溝

上幅1.5m、深さ60cmのしっかりした溝で、区画溝と考えられます。溝の方向が赤色の建物の向きと合っていることから同時期と考えられます。溝が埋まった後に、青色の建物が建てられています。

建物などの遺構には伴っていませんが、風字硯や緑釉陶器が見つっています。普通の集落からはあまり出土しない遺物であることから、播磨国府系瓦の出土とともに興味深いものがあります。



土師皿の出土状況



木組み井戸

井側は方形縦板組みで隅柱を持ち、湧水層に桶を設置していました。南側にある建物群(オレンジ)と同じ時期だと考えられます。

中世には、祈晴や祈雨などといった農耕祭祀や建物に係わる祭祀において牛や馬などの頭蓋骨や下顎骨が用いられていました。



馬の歯の出土状況



2から見た全景(14年度調査)

建物跡などの地面に掘り込まれた痕跡を遺構と呼びます。これまでの調査で掘立柱建物跡、井戸、土坑、区画溝、屋敷墓などが見つかっています。

建物跡はその建っている向きから大きく3つに分けることができます。この向きの違いは建てられた時期の違いを表していると考えられます。それぞれの時期は厳密には把握できていませんが、大きく赤 青という変遷があることがわかってきました。